

九州産業考古学会報

第15号 2011年4月30日発行 発行元：九州産業考古学会

長崎における産業遺産の最近動向



後藤恵之輔（長崎大学名誉教授、軍艦島研究同好会代表）

わが国においても、近代化の担い手として産業遺産への注目が集まっている。ここでは長崎における産業遺産に絞って、その最近動向を紹介しよう。取り上げる産業遺産は、軍艦島、三菱重工長崎造船所、池島の三つである。

軍艦島（端島）は周知のとおり、2009年1月に世界遺産暫定候補となり、同年4月22日には35年ぶりに上陸解禁となった。解禁の09年度には約55,000人が島を訪れ、10年度は10

月までに約57,000人と前年の2倍のペースである。

しかし、この増加傾向が今後とも続くとは限らない。一昨年からこれまで島への台風襲来がなかったからだ。台風がくると、その強風と高浪により護岸や建物などに被害が生じるため、いつも安全に上陸できるわけではない。

台風の襲来がなかったことは、島の植生繁茂にもつながっている。この繁茂が建物に影響を与えかねないことから、いま植生調査が注視されているところだ。また、島を管理する長崎市は、建物等に手を加えて修復するなどせず、風化に任せる方針である。

三菱重工長崎造船所も、軍艦島とともに「九州・山口の近代化産業遺産群」のひとつとして、世界遺産暫定候補となっている。確かに、当造船所は日本の近代化を支えた施設だが、通常の「遺産」とは違って、明治時代から現在に至るまで稼動し続けてきている。

いわゆる「稼動資産」だが、八幡製鐵所（現・新日鉄）、三池港と並んで当造船所も、技術の進展とともに将来、施設に手が加わることは十分にあり得る。このため、文化財保護法のみ枠でくるわけにはいかず、最近、政府は「国民の声」も取り入れて、複数の法律を適用するようにした。

池島は、閉山から9年がたち、海外（インドネシアなど）からの研修生受け入れも、昨年度で終了した。人口は閉山時の約2,700人から約300人へと激減している。

現在、軍艦島のように炭鉱遺産の活用を模索中である。模擬坑道での体験学習が中心の炭鉱観光に期待が寄せられている。観光客増に力を入れるため（観光客は08年度の約1,200人が最高）、映画「信さん」のロケを誘致し、チラシを県内の観光案内所に置くなど、知名度アップに躍起だ。しかし、大牟田のネイブルランドの二の舞になってはならない。私は「軍艦島研究同好会」として協力したい所存である。

【提言】

九州産業考古学会の更なる発展を願って

後藤恵之輔（長崎大学名誉教授、軍艦島研究同好会代表）

私の Kias 歴

私が九州産業考古学会（以下 Kias と略記）に参加して、もう 6、7 年になろうか。産業遺産（志免壱坑櫓、軍艦島）の熱映像観測やコールロード（石炭海道）などを研究発表し、折尾駅、三菱長崎造船所・史料館などの見学会に参加するなどした。中でも津屋崎千軒の見学は、津屋崎と言えは子どもの頃に行った海水浴場しか知らなかったため、とても新鮮で勉強になった。

本文では、これら活動に参加した経験に自身の学会・市民活動等の体験を絡めて、Kias の更なる発展を願い、いくつかの提言をするものである。

活動の 3 軸を明確に

活動の基本として、「内から内へ」「内から外へ」「外から内へ」の 3 軸を明確にしたい。「内から内へ」は会員相互で行う研究発表会、見学会の開催など、「内から外へ」は外部への情報発信、他会との連携行事など、「外から内へ」は外部講師の講演等による会員の啓発活動などである。

これまでの Kias 活動においては、これら 3 軸が明確に行なわれていなかったようである。とくに「内から外へ」は、会の外部へのアピールと存在認識の点から重要視されなければならない。

私が代表を務める軍艦島研究同好会においては、これを重視し、昨年だけでも軍艦島フォト川柳の公募と表彰（71 句応募有り）、ガイドブック「軍艦島は生きている！」の監修刊行（既に 3 刷を重ねる）、軍艦島展示会（九州各県・東京・兵庫他から約 700 人の来場者）および「世界遺産」特別講演

会の開催を行ったものである。いずれも新聞・テレビで取り上げられ、同好会の存在と活動を世間に大きくアピールできた。

地方・地域にも視座を

活動 3 軸のいずれにも該当するが、Kias は地方・地域にも視座をおくべきである。その名称に「九州」と謳っているものの、Kias の活動はまったくと言っていいほど福岡に集中している。これでは会員は「井の中の蛙」になりかねず、世間からの認識には程遠い。

私が委員長を務めた地盤工学会の生態系研究委員会の活動（3 年間、主として東京）の一端を紹介しよう。「地域フォーラム」の開催である。委員会の各地視察も兼ね、地域との意見交換や地域の人を交えての研究発表会を行なった。静岡・神戸・広島・福岡の各市で実施し、とくに福岡市では遠く大分からの一般発表や「日本野鳥の会」支部長も参加しての意見交換とあり、得られる意義は大きかった。

Kias の平成 22 年度下期計画打合せにある「定例映写会」はいい。会場としていくつか候補に上がっているが、映写会を是非とも地方・地域でも実施していただきたい。また、内容が主として産業分野の映画とあり、これも広い意味にとりたい。

私はあの「タコマ落橋」の 16 mm フィルム完全版を有している。長崎大学在職中の当初には、学園祭のときに一般・学生向けに映写していたものだが、この 30 年来映写したことはなかった（昨年写してみても、フィルムは完全無欠であることを確認している）。吊り橋技術の大変なエポックメイキン

グとなった、この有名なタコマ落橋を、会員のみならず一般の皆さんにもご覧になっていただきたいものである。

心・技術の重視を

世界遺産にしろ、産業遺産にしろ、どうも「物」に重点が置かれているようである。

「心」と言おうか、「技術」と言おうか、そのような物にならない心・技術も産業遺産に含めたい。

私は一昨年 9 月、福岡県立図書館であった「日本の近代化と福岡県」の講演を拝聴した。わが国近代産業に蒸気機関を導入した、明治の企業家・杉山徳三郎の物語である。とくに「スペシャルポンプ」には感動した。炭鉱の坑内湧水を地上に排出する蒸気機関で、これなくば、わが国の炭鉱産業の発展と隆盛はあり得なかったと言ってよい。

九州自動車道が鹿児島シラス地帯を走るとき、山間部の土（シラスという火山灰土）を削っての、いわゆる切土斜面の勾配が 45 度となっていることに、お気づきだろうか。昭和 40 年（1965）代、九州縦貫道をこのシラス地帯に通すとき、切土斜面の勾配を直に立てるか緩くして寝せるかの「緩急論争」が、土木学会あげて展開された。結果、直に立てる江戸時代からの伝統工法は、力学的に不安定性を招くとして避けられ、45 度の緩斜面にする工法が採用された。緩斜面は力学的に安定であり、降雨に弱いシラスの弱点に対しては芝張りと徹底的な排水で対処がなされた。この裏には、経験と十分な調査・実験に加えて、その頃やっと注目されだした有限要素法（FEM）による解析が威力を発揮したのである（筆者が担当）。

これら 2 例はいずれも、知る人ぞ知る心・技術と言えるもので、最近の若い技術者は恐らく知らず、いわんや一般の人においてをや、の産業遺産である。是非とも伝承されなければならない。

Kias 認定産業遺産を

Kias はどこからも独立した組織と理解している。ならば、Kias 独自の認定産業遺産があってもいいのではないか。そして、その対象にも上述した心・技術の産業遺産があっていいだろう。

産業遺産の国際的な定義として「ニジニータギル憲章」がある。この憲章で、産業遺産は「歴史的、技術的、社会的、建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」と定義されている。具体的には「建物、機械、工房、工場及び製造所、鉱山及び処理精製場、倉庫や貯蔵庫、エネルギーを製造し、伝達し、消費する場所、輸送とそのすべてのインフラ、そして住宅、宗教礼拝、教育など産業に関わる社会活動のために使用される場所」が挙げられている（世界遺産年報 2008 から）。

この憲章にあるように、産業遺産は建物・機械・鉱山・インフラ・場所等と、すべて物に限定されている傾向が強い。是非とも Kias 認定産業遺産を設け、物だけでなく心・技術にもその対象を広げたいものである。

活動資金の獲得を

以上に提案しただけでなく、Kias のすべての活動には資金が必要である。少額なもの例をとっても、Kias 認定産業遺産には当然、認定証が必要であり、その表彰状を購入しなければならない。また大きなものといえば、地方・地域への視座のためには、そこへ行く交通費が必要だ。このように大から小まで、活動資金は枚挙に暇が無いほどである。

これら活動資金をこれまでのように、会員の会費のみで賄うことは至難の業と言えよう。この解決には努力して活動助成に申請し、潤沢とはいかないまでも Kias 活動に必要な資金を獲得していきたい。言うは易く行うは難しだが。

【報告】

筑豊石炭鉱業組合直方会議所築100年の歴史を語るシンポジウムに参加して

松田寛（日本産業技術史学会 理事）

去る2010年10月3日、ユメニティのおがた小ホール（福岡県直方市）にて表題のシンポジウムが行われた。

県立鞍手竜徳高校和太鼓部の勇壮な太鼓の饗宴の後開かれた講演では、最初に森井啓次氏（福岡県世界遺産登録推進室技術主査）が筑豊石炭鉱業組合直方会議所と世界遺産の動向について講演、世界遺産の保存へのプロセス、国内での動きなどを説明した後、地域おこしとしての観光産業ネットワークシステムの構築を提言した。

長弘雄次氏（筑豊近代化遺産研究会会長・九州共立大学名誉教授）が筑豊炭田の近代化遺産について、その歴史と現存する各地区の炭鉱遺跡を紹介、今後の提言をした。

最後に谷 弥寿彦氏（福岡経済同友会筑豊部会副会長・谷弥石油（株）社長）が近代化遺産を活かした観光まちづくりについて講演。谷氏は市民型の観光まちづくり参考例を取りあげながら近代化遺産活用のために地域がすべきことを、①商業利用、②学習・体験の場、③他の観光資源地域との連携と提言した。

パネルディスカッションには後述する5人が登壇し、菊川清氏（近畿大学産業理工学部元教授）がコーディネーターを勤めた。

はじめに舌間信夫氏（郷土史研究家）が直方の歴史をひも解きながら町の形成、鉄工業の歴史を紹介した。その中でも各地域で地域おこしを活発に行い連携とネットワークすることが不可欠で、それは各自が地域を知ることから始まると強調した。

榎田崇氏（宮若市石炭記念館長）の貝島鉱業創業者貝島太助の生い立ちと貝島炭鉱の歴史紹介の中で、私は貝島太助が児童に奨学金を出していたことを知り、その心意

気と苦勞の念に感動した。貝島炭鉱の各炭鉱内には太助の意志に基づき私立学校が創られたが、そのうち菅牟田小学校の校舎が現在宮若市石炭資料館になっている。

玉井昭次氏（旧筑豊鉱山学校地光会副会長）は旧筑豊鉱山学校資料室について、学校創設の意義と明治時代からの写真や教本、鉱物資料などを紹介した。その中で昭和初期の鉱山学校を映した16mmフィルムが現存していることに非常に驚いた。

嶋田光一氏（飯塚市文化財保護課長）は飯塚市域の遺産現状と課題、目尾炭鉱の発掘調査や筑豊全域の産業観光ルート開発について提言報告を行い、見せる、触れる、体験するプログラムが必要と提言した。

安蕪龍生氏（田川市石炭資料館長）は、世界遺産の経緯と今後の課題を述べた。その中でもメモリ・オブ・ザ・ワールド（世界記憶遺産）に故山本作兵衛氏の筑豊炭鉱絵を田川市単独で申請したことを発表、この審査結果は近々発表予定であることを話した。また、安蕪氏は筑豊炭田の歴史遺産は、現在世界遺産構想の中で関連遺産の位置づけを検討しているが非常にきびしい状況であり、遠賀郡や中間市、北九州市西部を含む旧筑豊5郡の各市町村民や自治体が連携していくべきだと強調した。

菊川氏は地域の特性を地域住民が掘り起こし、知り、行政と民間が一体化して行動することが不可欠であるとパネラーの意見をまとめた。

このシンポはリレー連携シンポとして各自治体が連携しておこなっており、非常に意義が高いシンポであったがパネルディスカッションの進行等やや無理な部分があり、今後引き継ぐ際気をつけていきたい。

【報告】

「しめの文化財ウォーク」

しめの文化財ウォークは 2010 年 11 月 7 日（日曜日）10 時から 12 時、主催：志免町教育委員会、後援：西日本短期大学・九州産業考古学会で行われました。



写真 しめの文化財ウォーク当日の様子

この事業は、全国で行なわれている「近代化遺産 全国一斉公開 2010」の一環として行っているものです。この事業は 10 月 20 日の「近代化遺産の日」にあわせて、全国各地で近代化遺産を一斉公開するというものです。また、福岡県が行なっている「平成 22 年度県内文化財関連イベント情報発信事業」にも参加しており、定員の 30 名いっぱいで行われました。当日のコースは、旧志免鋳業所竪坑櫓（国指定重要文化財）を見学後、志免鋳業所跡竪坑及び第八坑関連地区（県指定史跡）や、ボタ山、産業遺産収蔵庫など全国に類をみない石炭産業遺産を見学しました。11 の爽やかな秋の風を体で感じながら、ふるさとの歴史を学ぶ「楽しい一日」となりました。

当日は、「旧志免鋳業所の歴史を学ぶ会」が自分たちで作った鋳業所の歴史のチラシを配布していました。

【報告】

北九州工場群夜景観賞バスツアー

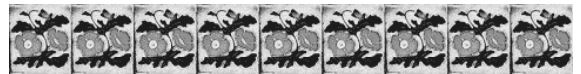
市原猛志（事務局）

「工場萌え」という言葉をご存じだろうか。これは工場（主に夜景）を美的観点から鑑賞するもので、近年マスコミにも盛んに採りあげられている。

川崎、四日市の各工場地帯ではツアーバスが繰り出されるなど、各地で盛況となっている。この流れに負けるな、と北九州でも今年に入って J T B 九州によるツアーが行われ、私がガイドを務めることとなった。

ツアーでは、「工場萌え」というよりも、北九州工業地帯の成立となぜこの地に工場ができたのか、また現在の工場く生産品について、3 時間少々コースの中で説明を行っている。おかげをもって第 1 弾である 2 月～ 4 月にかけてのツアーは早々予約完売し、現在 5 月以降販売予定の第 2 弾ツアー開催に向けて準備中である。

ツアーに関する詳しい問合せは、J T B 九州北九州支店（TEL:092-751-2102）まで。



【お知らせ】

「カメラの進化展～古き良き時代から現代まで～」

私たちの生活を激変させたカメラの発明と進化について、各年代を代表する名機 100 台以上を展示し、技術の変遷と時代背景などを紹介。

会期：2011 年 3 月 19 日～ 6 月 19 日

開館時間：9：00～19：00 *土日祝日と 5 月 2 日は 17:00 まで（入場 30 分前まで）

場所：北九州イノベーションギャラリー
（北九州市八幡東区東田二丁目 2-11）

休館日：毎週月曜日（5 月 2 日は開館）

入場料：一般 500 円・小中学生 250 円
（団体 30 名以上 2 割引）

【お知らせ】

「筑豊の近代化遺産」講座－筑豊の産業遺産が語る日本の近代化－

かつて、日本最大の出炭量を誇った筑豊炭田には、独特のヤマの歴史と文化が育まれていた。

今回筑豊の石炭関連資料館が連携して、全12回に分けて筑豊が誇る各種遺産をリレー講義で紹介する。

期間：2011年4月～2012年3月

開催時間：全12回、月1回原則第3土曜日 13：30～16：30（詳しくは下表参照）

参加定員・参加料：定員 30～50名 資料代1回 300円/人（年間受講者 3000円/人）

問合せ、申込み先

- ・田川市石炭・歴史博物館 0947-44-5745
- ・直方市石炭記念館 0949-25-2243
- ・飯塚市歴史資料館 0948-25-2930
- ・宮若市石炭記念館：0949-32-0404
- ・筑豊近代遺産研究会 090-9485-5985
- e-mail：kkikukawa821 @ gmail.com

平成23年度筑豊の近代化遺産講座一覧（開催時期、各館講座回数、講座内容等）

回	月/日	会場	講座名
1	4/23 (4土)	飯塚市歴史資料館 研修室	1) 嘉飯地区を中心とした筑豊の近代化遺産（長弘雄次） 2) 筑豊炭田近代化の先駆者杉山徳三郎の事績（長弘雄次） 3) 筑豊炭田近代化発祥の地、目尻炭坑の調査（八木健一郎）
2	5/28 (4土)	同	1) 筑豊炭田の採掘・採炭技術の歴史（長弘雄次） 2) 九州地区の石炭産業における堅坑に関する史的研究（長弘雄次） 3) 石炭の積出港として栄えた若松港と石炭商社建造物群（市原猛志）
3	6/25 (4土)	同	1) 筑豊の石炭輸送に活躍した川ひらたと鉄道（長弘雄次） 2) 遠賀川流域の地名と筑豊炭田の石炭賦存との相関性（長弘雄次） 3) 筑豊炭鉱の戦後の復興から閉山に至る四半世紀の軌跡（長弘雄次）
4	7/16 (3土)	田川市石炭・歴史 博物館研修室	1) 筑豊の石炭産業ものがたり－石炭の発見から閉山まで100年の記録（長弘雄次） 2) 炭坑の語り部の企画と記録（安蘇龍生） 3) 伊田堅坑開削時の様相について（福本寛）
5	8/20 (3土)	同	1) 田川地区を中心とした筑豊の近代化遺産長弘雄次 2) 明治の頭領と納屋制度について（安蘇龍生） 3) 筑豊地域の「友子」制度について（安蘇龍生）
6	9/17 (3土)	同	1) 炭坑節発祥の地（福本寛） 2) 山本作兵衛炭坑絵画（徳永恵太） 3) 山本作兵衛日記・手帳（森山沾一）
7	10/15 (3土)	赤村源じいの森	1) 筑豊の石炭輸送に活躍した筑豊興業鉄道・豊州鉄道（松浦幸市） 2) 旧蔵内家住宅・あをぎり・炭坑住宅の変遷（安蘇龍生・福本寛） 3) 日本の産炭地からみた筑豊炭田の特徴（福本寛） ※豊州鉄道関係遺産の紹介で、赤村地区で講演（実地見学を含む）
8	11/19 (3土)	貝島六太郎邸見学 宮若市石炭記念館	1) 貝島六太郎邸の説明と庭園の紅葉見学（貝島家関係者） 2) 筑豊炭田の近代化遺産の全体像（長弘雄次） 3) 宮若市石炭記念館収蔵品と貝島炭礦の歴史（榎田崇）
9	12/17 (3土)	直方歳時館 （旧堀三太郎邸）	1) 直鞍地区を中心とした筑豊の近代化遺産（長弘雄次） 2) 筑豊の石炭輸送に活躍した遠賀川水運と筑豊興業鉄道の盛衰（長弘雄次） 3) 旧堀三太郎邸と直方市殿町古町の近代化建造物遺産群（牛嶋英俊）
10	1/21 (3土)	直方歳時館 （旧堀三太郎邸）	1) 筑豊石炭鉱業組合と直方会議所（長弘雄次） 2) 救護隊練習坑道（坂田耕作） 3) 筑豊鉱山学校の歴史（玉井昭次）
11	2/11 (2土)	麻生本家・大浦荘 大浦荘又は研修室	1) 麻生百年史と麻生本家・麻生大浦荘（深町純亮） 2) 旧伊藤伝右衛門邸・嘉穂劇場と嘉飯地区の近代化建造物群（毛利哲久）
12	3/17 (3土)	飯塚市コミュニテ ィセンター	筑豊の近代化産業遺産に見る日本の近代化を推進したエネルギーのシンポジウム（仮称） 基調講演：（長弘雄次） パネルディスカッション コーディネーター（菊川清） パネラー 安蘇龍生、嶋田光一、坂田耕作、榎田崇

【お知らせ】

尾花 基 (おばなもとい) 写真展
(九州産業考古学会後援イベント)

福岡県吉井町 (現・うきは市) 出身の写真家、尾花基氏の作品79点を展示

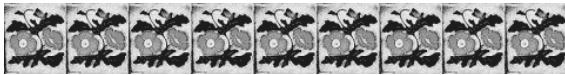
テーマ：日本の近代化遺産“志免豎坑櫓・万田坑”と、地中海イビサ島の風景

主催：須恵町立美術センター久我記念館

期間：4月9日(土)～5月29日(日)

会場：糟屋郡須恵町立美術センター久我記念館 1階展示室及びロビー・入場無料

問合せ：須恵町教育委員会 社会教育課
(TEL:092-934-0030 (山下))



【書籍紹介】

穂積和夫『絵で見る明治の東京』

尾崎徹也(会員)

九州産業考古学会は主に明治維新から昭和20年の終戦期までを中心にした産業遺産の調査と研究を行ってきた。

今回ご紹介する新刊は明治の東京を題材に産業に拘る事無く、歴史の流れとともに新しい国づくりや町の施設の起こりなど詳しく調べ上げている。一方で市民の生活や、はたまた庶民の楽しみまでを調べ上げ多数の忠実なイラストとともに紹介した著書だ。

筆者、穂積和夫さんはメンズファッション業界では知る人ぞ知る売れっ子イラストレーターだ。そんな氏の180度違う著書だけに異色の本だ。ただし氏の経歴を見ると東北大学工学部建築学科出身との事で忠実に描かれた産業遺産建築は素晴らしく、写真に無い想像力を読者に与えてくれる。

東京の町はスクラップ&ビルドで明治の面影は殆ど無いが、この本を読めば些かでも東京行きが楽しくなる事をお約束する。

(株式会社草思社、2010年、2,100円)

【お知らせ】

平成23年度九州産業考古学会年次総会

今年度の総会・見学会では、ご厚意により通常は非公開の貝島百合野別邸を見学します。詳しくは同封の葉書を参照下さい。多くの会員の参加をお待ちしています。

1 総会 会場：直方歳時館 (JR 直方駅から徒歩10分)

日時：2011年6月4日(土) 10:30～

内容：事業・会計報告/事業計画/役員改選

2 研究発表 引続き 11:00～12:00

研究発表会 (3名募集) を行います。

(研究発表終了後昼食は、弁当(参加費に含む)を準備しています。)

3 見学会 総会終了後 13:00～17:00

内容：貝島百合野別邸(通常非公開)内を見学後、宮若市石炭記念館、貝島六坑跡地散策等を予定(貝島邸見学以降は変更の可能性有)

※貸切バス使用及び昼食などで参加費が必要(3000円程度、参加人数により変更)となります

※会員外の参加も可能(研究発表会～)です

4 懇親会 17:30～ JR 直方駅周辺予定



写真 旧貝島六太郎別邸(百合野山荘)

■■会報第15号・目次■■

【巻頭言】

長崎における産業遺産の最近動向
 ……………後藤恵之輔 1

【提言】

九州産業考古学会の更なる発展を願って…
 ……………後藤恵之輔 2

【報告】

筑豊石炭鉱業組合直方会議所築100年の
 歴史を語るシンポジウムに参加して
 ……………松田寛 4

【報告】

「しめの文化財ウォーク」
 …………… 5
 北九州工場群夜景観賞バスツアー
 ……………市原猛志 5

【お知らせ】

「カメラの進化展～古き良き時代から現代
 まで～ …………… 5

「筑豊の近代化遺産」講座ー筑豊の産業遺産
 が語る日本の近代化ー …………… 6
 尾花 基写真展 …………… 7

【書籍紹介】

穂積和夫『絵で見る明治の東京』
 ……………尾崎徹也 7

【お知らせ】

平成23年度九州産業考古学会年次総会
 …………… 7
 今後の予定 …………… 8
 会費納入・ご寄付のお願い………… 8

(お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください)

今後の予定【変更の可能性が有ります】

月／日	活動内容
6/4	年次総会 (福岡県直方市)
夏季	肥薩線見学会 (人吉市界限)
11/19・ 20	産業考古学会全国大会 (熊本 学園大学)
不定期	定例映写会
秋季	会報第16号発行
冬季	大神回天基地跡見学会(大分県 日出町)
冬季	久山銅山群跡見学会(福岡県)

会費納入・ご寄付のお願い

当会は事務局体制や会報を充実させるため、
 会則により年会費を個人会員 2000 円、団体会員
 は 5000 円それぞれ徴収させて頂いています。当
 会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付
 の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会費納入・寄付先口座 (一覧)

- ・ゆうちょ銀行 17430-88882241
 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ
- ・福岡銀行大牟田支店 (店番 691)
 普通 1914369 九州産業考古学会

<編集後記> 私事であるが、大学にて百年史の編集作業に関わることになった。来年には「大正百年」を迎え、今後百周年を迎える企業・大学も続々と増えることだろう。自然災害の前に私たちが行っている研究はあまりにも儂いものかもしれないが、人類の歩んできた道のりを記録することで今後得るべき教訓は多いのではないかと、思い日々作業に励んでいる。(市原)

九州産業考古学会事務局 〒 811-3430 福岡県宗像市平井二丁目 12-1 砂場一明 気付
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp
 URL : http://f17.aaa.livedoor.jp/~heritage/

学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者 (iota_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。